

第 68 回総会・講演会を開催

1. はじめに

道東技術士委員会では例年、5月に釧路、11月または12月に帯広で総会を開催しています。

今回の活動レポートは、11月に開催しました第68回総会と講演会について報告いたします。

2. 第68回総会

○日時：平成25年11月29日(金)午後6時～

○場所：北海道ホテル

○出席者：24名(技術士23名、技術士補1名)

講演会に続いて、平成25年度第2回総会を開催しました。

冒頭、工藤代表は講演内容を念頭に、私たちは水から様々な恩恵を受けており、将来も良好な状況を保つよう、我々の技術を生かしていきたい。と挨拶しました。

また、技術士会の組織改編について、以下の事項を説明しました。

- ・H25年7月に組織が改編され、地方委員会ができ、これまでの5つの地方技術士会が技術士委員会と名称を変更して地方委員会の下に設置された。
- ・地方委員会は、各技術士委員会の相互の情報交換と、本部の事業委員会と連携してCPD(継続教育)を充実していくことが重要な役目となっている、

3. 講演会

第68回総会にあわせ、講演会を行いました。

○演題：ザリガニ・カワシンジュガイ・魚類など水生生物と河川環境の関わりについて

○講師：(株)北開水工コンサルタント

折戸 聖 技術士

折戸技術士は、ザリガニ研究会でも活動されており、ザリガニ・カワシンジュガイ・魚類の特徴や生息環境について、これまでの調査成果などを基に講演をしていただきました。



写真-1 講師の折戸技術士

①ザリガニ類

ザリガニ類は、世界には約500種類があり、日本には、アメリカザリガニ、ウチダザリガニ、ニホンザリガニの3種類が生息し、ニホンザリガニ以外は北米原産である。

ウチダザリガニは爪の一部が白く、ニホンザリガニは頭の突起が鈍角などの特徴がある。

ニホンザリガニは成熟年齢が5～6年で、他のものに比べ約3倍の期間が必要で、近年、個体数が急速に減少している。

ニホンザリガニが、絶滅危惧種に指定され、保全対象となっているのに対し、他2種は駆除対策が必要である。

過年度の調査データでは、ウチダザリガニが水温30℃近くでも生息するのに対し、ニホンザリガニは25℃で多くが死んでしまうなどの結果があるほか、生息環境として、水温、水位、流速、濁り、底

質、えさ、補食者の有無が関係する。

その他に、十勝川水系や鹿の子ダムにおける生息分布状況について説明をいただきました。

②カワシンジュガイ類

カワシンジュガイ類は、世界に13種類程度があり、日本には、カワシンジュガイとコガタカワシンジュガイの2種類が生息し、両方とも絶滅危惧種に指定されている。

カワシンジュガイは、名前の通り真珠ができることから、過去には北海道で真珠生産組合が設立されたが、成長が遅く産業として成り立たないことから、現在は生産されていない。

年齢は、靱帯や貝殻の成長線により確認でき、100年以上の寿命がある。

生活史は、幼生放出⇒ヤマメ等のえらに寄生⇒底生生活⇒幼貝⇒成体で、生存率は1億分の1で大変厳しいものとなっている。

カワシンジュガイは、流下する微細な有機物を食べることから、河川の濾過効果があり、1個体当たり50ℓ/日で1万個体であれば50万ℓ/日と大量の水を濾過することになる。

近年は、大規模な河川工事、埋立てなどの環境変化、土砂流入、干上がり、宿主魚類の減少などで個体数が減少している。



写真-2 講演会風景

③魚類

北海道には約80種類の淡水魚が生息しており、そのうち約30種類が絶滅危惧種となっている。

魚類は、それぞれ生息可能な水深や流速範囲をもっており、保全にはこれらを把握して適切な対策を検討する必要がある。流速・水深より算定するフ

ールド数は、魚類の生息条件を表すのに適している。

④まとめ

水生生物の保全には、河川管理者、地域住民、学識者および民間が利害を超えて協力し、良好な河川環境を保全していくことが重要である。

4. 懇親会

講演会後は、帯広開発建設部長の板倉技術士に、いろいろな分野の技術士と交流しスキルアップしていきたいと挨拶していただき、乾杯の音頭で懇親会に入りました。



写真-3 講演会風景

懇親会では、名刺交換や近況について報告しあうなど、和やかに歓談しました。

会の最後は、当会副代表の紅葉技術士が恒例の依持ち上げ型の万歳で締めました。

5. おわりに

これまでの講演会では、地域で活躍されている研究者や専門家をお招きしていましたが、今回は、会員技術士が講師となる初めてのケースでした。

趣味で撮影した水中写真を用意していただくなど、講師の折戸技術士にはご苦勞をおかけしましたが、講演内容は興味深く、盛況のうちに終了しました。この場をお借りして御礼を申し上げます。

当会では今後とも、講演会や現場見学会などを開催していきたいと考えていますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士委員会の活動レポートとさせていただきます。